

22世紀まで公共交通 を残すために

自然科学探究②班

活動のテーマ

公共交通の利便性について考える

活動の目的

- ・公共交通機関の維持や利用促進
- ・交通量の緩和

テーマ設定の背景

- ・人口減少
- ・赤字ローカル線（鉄道・バス等）の廃線

活動内容

- ・朝来市の交通機関の現状を調べる
- ・朝来市周辺の地域と似た特徴を持った市町村の違いを調べる
- ・調べたデータをまとめ、それぞれの特徴を考える
- ・公共交通の利用促進について何かできることがないか考える

これまで行ってきたこと

播但線の現状

平均通過人員

交通機関における1日1kmあたりの平均輸送量。

播但線の現状

営業係数

100円の営業収入を得るためにどれだけ費用がかかるかを示す指標

(100円を上回れば赤字、100円を下回れば黒字)

$$\text{営業係数} = (\text{営業費用} \div \text{営業収入}) \times 100$$

播但線の現状

寺前～和田山間

平均通過人員 1083人/日

営業係数 299

事例紹介

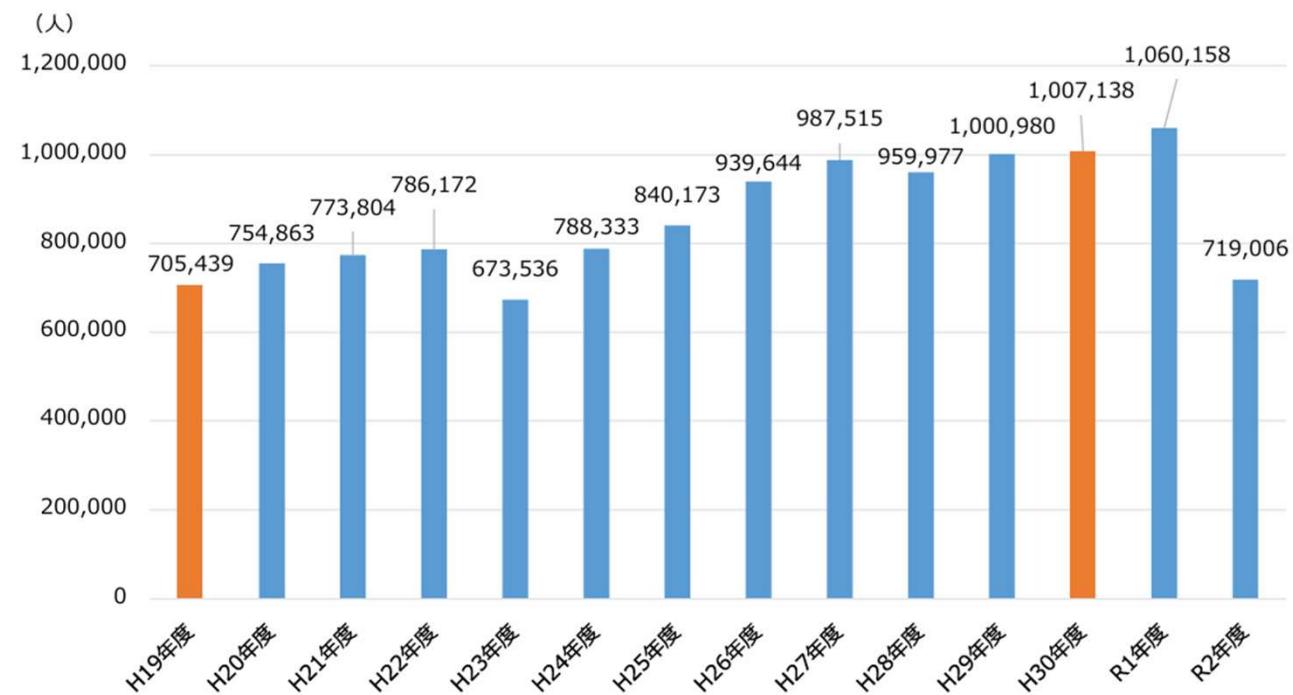
この地域でできること

ひたちなか海浜鉄道(茨城県)

平均通過人員
未公表
営業係数
未公表



課題
利用人数の低下



ひたちなか海浜鉄道(茨城県)

取り組み

駅前でのイベント開催

那珂湊（なかみなと）駅での駅前朝市等

駅＝通過点 → 駅＝交流拠点へ

結果

黒字化を達成

利用者の増加

ひたちなか海浜鉄道(茨城県)

ポイント

- ・駅を目的に訪れる人の増加
- ・新たな利用者の獲得

駅前で月一でイベント

過去に開催された『あつまれ生野の駅』という
イベントを参考に
季節ごとのマーケット(地元農産物、加工品、
キッチンカー、地元高校の出店)を駅前で開催

駅前で月一でイベント

人を呼び込むことで列車利用と結びつける
(ひたちなか海浜鉄道を参考に)
ゆめいくの班などにも協力してもらえるのでは

大井川鐵道（静岡県）

平均通過人員

未公表

営業係数

未公表（100以上）

課題

沿線人口減少

限られた観光客

苦しい経営状況



大井川鐵道（静岡県）

取り組み

SL（蒸気機関車）列車を観光列車として導入

「きかんしゃトーマス号」「物販」など付帯事業で観光資源として路線を活用

結果

SL列車は年間30万人近くを動員

視察も相次ぎ、注目を集め



大井川鐵道（静岡県）

ポイント

- ・観光客をターゲットにした利用促進

アートなどの観光地を作る

町中や田んぼ・旧校舎を使ったアート設置
長期に渡って観光の起点に（大井川鐵道）

アートなどの観光地を作る

人が来ることで利用者数増加

事例：青森県で行われている『田んぼアート』の来場者は年間平均27万人ほど
多い年は30万人を超えることも

アートイベントは場合によっては
かなりの影響がある



田んぼアート『モナ・リザ』

JR牟岐(むぎ)線実証実験(徳島県)

平均通過人員

阿南以北3794人/日

阿南以南352人/日

営業係数

阿南以北130

阿南以南445

課題

沿線人口減少

列車本数の減便



JR牟岐(むぎ)線実証実験(徳島県)



徳島～阿南
日中パターンダイヤ導入
による利便性の向上
阿南以南
バスと鉄道の共同経営

JR牟岐(むぎ)線実証実験(徳島県)

徳島駅	時刻	
	5	45
	6	46
	7	17 51
	8	24
	9	30
	10	0 30
	11	0 30
	12	0 30
	13	0 30
	14	0 30
	15	0 30
	16	0 30
	17	0 30
	18	0 30
	19	0 30
	20	0 30
	21	30
	22	55

阿南駅	時刻	赤太字はバス
	5	
	6	37
	7	45
	8	10
	9	33
	10	24
	11	
	12	8 24
	13	
	14	24
	15	33 54
	16	24
	17	24
	18	24
	19	54
	20	
	21	
	22	26

パターンダイヤ化により
より利用しやすく

JRのきっぷでバスが
利用できるため、
列車本数の増加

JR牟岐(むぎ)線実証実験(徳島県)

ポイント

- ・利用しやすいパターンダイヤ導入
- ・バスとの連携による増便

鉄道とバスの共通化

牟岐線の実証実験を参考にバスと鉄道など
公共交通機関の間での連携強化

日常的な利用者の増加を目指す

例：JRのきっぷでバスを利用できるように
(牟岐線)

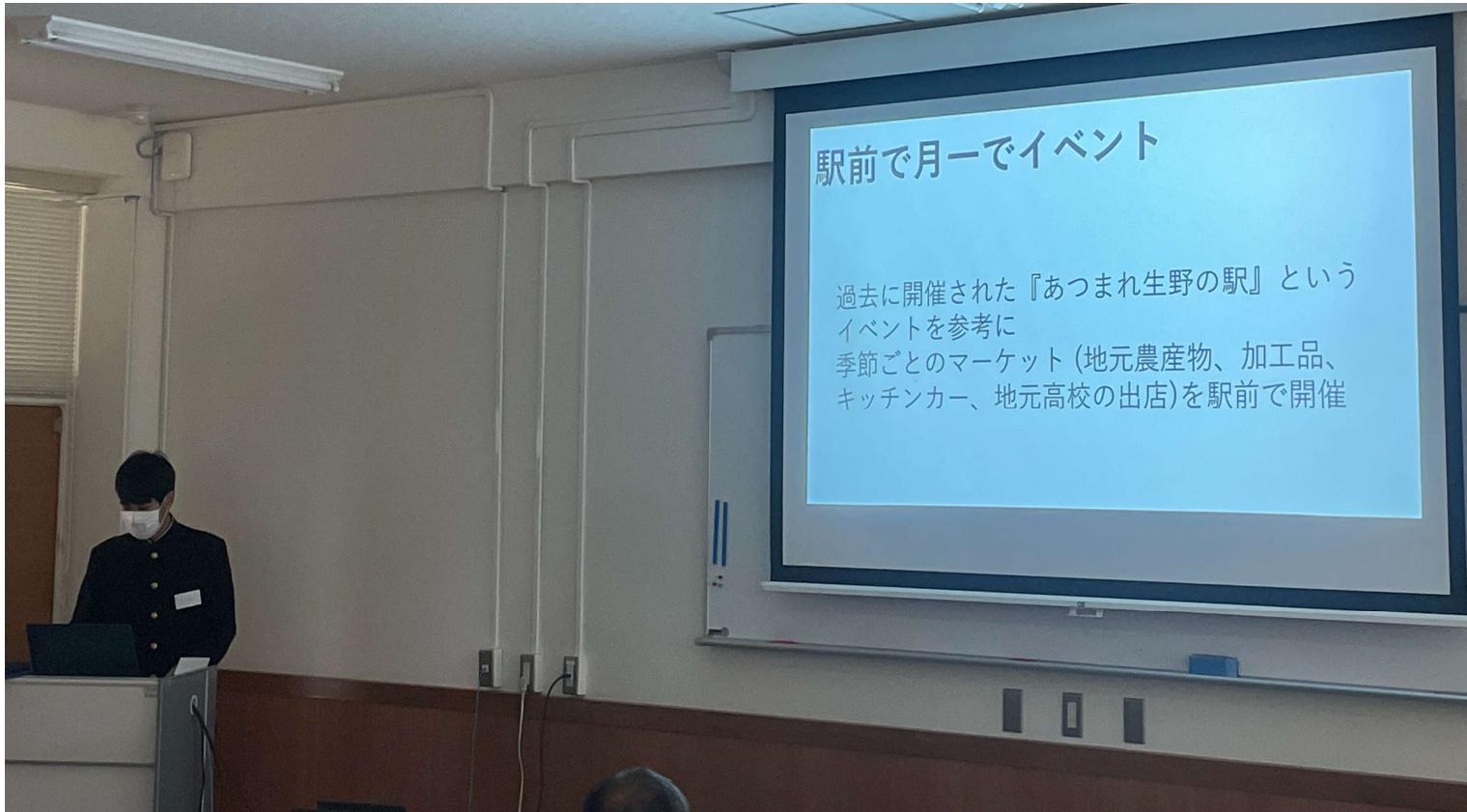
鉄道とバス、タクシーなどを乗り継ぐ際の
割引

ワークショップへの参加

生高生と作る第3回ワークショップ
(ゆめいく公共交通班主催) に参加



ワークショップへの参加



実際の発表の様子

市への陳情書提出

令和7年12月1日

公共交通の維持に関する陳情

朝来市議会宛てに 陳情書を提出

朝来市議会議長
浅田 郁雄 様

陳情者
住 所 兵庫県朝来市生野町真弓 432-1
氏 名 丸山 陽生 @
連絡先 電話番号 079-679-3123

1 陳情の要旨

朝来市においても、JR播但線をはじめとする公共交通の利便性が年々低下しており、地域住民の移動手段としての機能が損なわれつつあります。市民の生活の質を守るためにも、公共交通の維持と利用促進に向けた施策のさらなる拡充をお願い申し上げます。

2 陳情の理由

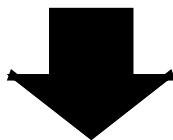
高齢化や人口減少の影響により、地域の象徴でもある公共交通の利用者数が減少し、全国的に多くの路線が廃止の危機に直面しています。朝来市においても、特に高齢者や学生など、公共交通に依存する層への影響が懸念されます。

地域の持続可能な交通環境を守るためには、単なる運行維持にとどまらず、地域の特色を活かした利用促進策が必要です。例えば、徳島県のJR牟岐線では、JRのきっぷで一部区間のバス利用を可能にする実証実験が行われており、実質的な増発につながっています。こうした柔軟な取り組みは、朝来市においても参考になると考えます。

市への陳情書提出

結果

朝来市都市政策課の方から



朝来市長に対して提案するという形に

最後に

公共交通は地域の暮らしを支える
大切なインフラ